

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0790800015		
法人名	医療法人 佐原病院		
事業所名	グループホーム さわら		
所在地	〒969-3532 福島県喜多方市塩川町字大在家21番地 (電話) 0241-27-5510		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年10月11日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (平成19年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	9 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人佐原病院、あきら歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅地として発展している一角に、700坪余の敷地に広々と建てられた平屋の2ユニットのホームである。ゆったりとした快適な生活環境の中で、利用者も職員も一体的に馴染みの関係を持ちながら、安定した生活を継続している様子がうかがわれる。設置主体の医療法人との連携が円滑に行なわれており、利用者の医療面の対応はもとより、介護職員の資質向上のための研修なども十分行なわれている。法人の方針として、仕事と家庭との両立を図るような業務体制を行なうこととしており、職員も安心して業務に取り組んでいる。ユニットごとの食堂・談話室を一望に見渡せるような位置にスタッフルームが設置されており、各ユニットの利用者の状態を一箇所で把握できることから、当ホーム設計の特徴であると話していた。玄関前には、利用者手づくりの前掛けをしたお地蔵さんが配置されており、外来者には開かれたホームとしての親しみを感じさせる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 開設1年未満(平成18年12月開設)のため、今回が初めての評価であり、前回評価はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。医療法人の責任者も内容を把握し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、開設後2ヶ月に1回定期的に開催しており、委員は行政区長、支所市民課長、市社協関係者、地域包括支援センター職員等行政や地域の代表者及び利用者とその家族となっており、会議記録からも積極的な意見・情報交換が行なわれ実質的な会議がなされていることがうかがわれる。今後は、外部評価の結果についての公表や改善についての意見交換等により、一層、地域との連携を基に開かれたグループホームとして発展されるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回、定期的に写真やコメントをそえた近況報告を送付している。その際併せて金銭出納報告書を添付し家族の確認を得ている。また、各利用者の健康状態についても、適宜電話で連絡をしている。運営推進会議では、利用者の代表や家族の代表より要望や意見等が出されるよう発言の場を設定している。意見箱を設置し活用している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 約200世帯からなる町内会に加入し、地域の人たちの理解を得るため行事の案内等を配布したりして交流に努めている。地域のボランティアの受入れも十分行なわれている。今後は、ホームの利用者や職員が積極的に地域の行事に参加し連携を図ることとしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域で安心した生活を継続することができるように支援していく地域密着型のサービスの内容については、職員全員が十分な理解と情報の共有をしていて、事業所独自の理念を作成している。		事業所の理念については、外来者にも説明とアピールが必要と思われることから、分かりやすい文言で記載したものを玄関に掲示することを提案したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はもちろん職員にも理念の理解は十分に浸透しており、日常の業務の根底にしっかりと存在している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームに対する近隣の理解と協力は開設1年未満でありながら広範囲にわたって得られており、散歩や畑仕事などの折にも声をかけてもらうことが多いとのことである。また、ホームの行事や地区の行事にはお互いに誘い合って交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるのは初めてであるが、調査内容にも明確に答え、調査員の提案などは真摯な態度で受け入れてくれている。評価結果を次回の運営推進委員会へ報告し、なお、いっその理解と協力を得るように望みたい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来4回の運営推進会議が開かれているが、委員それぞれが率直に意見を開陳し、開かれた会議になっているのがうかがわれる。また、管理者などの介護職員が本来の業務に専念できるように配慮され、会議録の作成は法人の統括事務長が行っていて、ポイントを押さえた記述になっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度、利用者の近況や金銭出納状況が報告されており、四半期ごとのホーム便りなどを通して、季節の行事や利用者の様子が家族に報告されている。また、入院などの医療的な事案については、家族へ速やかに連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、管理者が直接個別に対応することにより意見や提案を受け、解決策を講じている。また運営推進会議においても利用者や家族の意見が反映されるよう配慮している。		家族から利用者に目標を持たせるため、全員で折り鶴を作ることを提案され、早速実行・継続しているが、利用者は楽しんで行っており、大きな励みになっている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から1年未満であるので、職員の異動は法人内でのものが1件のみであり、利用者に動揺や混乱を招くような事例はないが、今後も利用者や家族との信頼関係を考慮して行っていく姿勢である。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人開設者の方針で、法人内の関係研修はもちろん管理者・職員が希望する研修には、費用の全額を支給して参加させているので、積極的に勉強しようとする姿勢が見られる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所で構成されたグループホーム連絡協議会へ加入し、3ヶ月に一度は11箇所のグループホームとの情報交換を行っている。職員は交代で参加し、カンファレンス会議で内容を報告している。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩である利用者の尊厳を損なうことなく、教えてもらうことの多さに驚きや感謝の念を抱いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握については日常生活の言動から読み取る努力をしている。また、「入居者さまあれこれお話しメモ」を活用している。今後は加えて、暮らしの情報による生活歴の把握や、課題検討の標準項目に従って状況把握を試みることにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居1ヶ月程度は実態調査を基に介護計画を作成し、その後経過を見ながらケア検討会議により新たに介護計画を作成している。介護担当者による定期的なカンファレンスと全体的な検討会議を行い、家族等の意見を取り入れながら、利用者にとって適切な計画となるよう援助方針を具体的に記載している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のケース検討会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ3ヶ月ごとの見直しを行なっている。しかし、介護記録より利用者の状態変化が継続して見られた場合、見直しの際、計画に状態変化に対応した具体的な援助方針が記載されていないのが残念である。変化に対応した実際のケアは行なっている。		変化に対応した実際のケアは行なっている ので、今後は、現状に即した援助方針を具体的に記載することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれている。今後は、日中3人体制の勤務状況から、家族同行についての理解を得ながら適切な医療受診がなされるよう検討している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明をしている。特に、変化していく身体状況や介護内容については、医師による定期的説明を行い、カンファレンスごとに適時の状況説明を通して家族の意向確認を行なうこととしている。また、看取りに関する職員教育を実施し、グループホームにおける看取り介護についての理解を深めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重し言葉かけにも十分配慮し、職員の守秘義務も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活の流れの中で、利用者の体調や気分によってそれぞれのペースで自由に過ごしており、希望に沿った支援を継続している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑で採れた野菜を職員と利用者が協同で調理したり、利用者のペースで後片付けも行なわれている。また、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝の一番風呂を希望する利用者もあり、それぞれの希望により入浴支援をしている。入浴拒否の利用者には、安心感を与えるよう職員と一緒に入るなど配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の得意とする書道、お裁縫、畑仕事などそれぞれに役割を見つけ、お願いしたりしながら支援している。また、職員は必ず感謝の意を言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を取り入れ買い物、散歩やドライブにも出かけている。家族と好物を食べに行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。センサーにより状況が確認できるようになっているが、利用者のその日の状況を察知しながら、さりげなく見守り行動を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、防火計画の作成や緊急連絡網も整備されており、年2回定期的に避難訓練を行なっている。今後は備蓄について法人全体で整備されることが望まれる。	○	災害等に備えた準備が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための石油ストーブ等の備蓄を法人として検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取量を担当職員が記載し、職員全員でそれぞれの摂取量を把握し支援している。今後は毎月栄養士によるメニューを参考にした栄養管理を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれのリビングルームを一望にできるスタッフルームがある。天井に明り取りの窓がついていて省エネにもなっている。利用者はスタッフルームを通り道にしてユニット間を行き来することができている。リビングルームの外にはデッキが設けられていて、季節によってはバーベキューやお茶をすることもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの個性を配慮した家具の配置になっており、窓が大きく開かれていて明るい印象である。		居室内での転倒事故もありうるので、ベッドから降りるところには、クッション性のあるカーペットなどを敷くことも考慮されたらどうか。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム さわら

記入担当者名 岩橋 千枝子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。